

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502298		
法人名	有限会社 優コーポレーション		
事業所名	グループホーム厚宮館 1階		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条1丁目1番30-2号		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	平成30年3月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kan=true&JigyosyoCd=0170502298-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者が共同生活の中で安心して生活が出来るように、ユニット間での交流や職員同士の情報の共有に努めています。また、体調変化にも十分注意を払い、協力医療機関と連携を図り、相談・報告を行うことで健康管理に努めています。
・1年を通して、お花見、夏祭り、紅葉見学、クリスマス会などの行事を毎月実施することで、季節を感じると共に、メリハリのある生活が送れるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム厚宮館」はバス停から数分の住宅地にある2ユニットの事業所である。隣接の同法人グループホームとは夏祭りにバーベキューを企画し、両事業所の家族と利用者間で交流する機会になっている。利用者は近くにある遊歩道の花々を見ながら散歩をしたり、お弁当持参で桜の花を楽しんでいる。地域との関係では町内会の運動会に利用者も玉入れ競技に参加したり、地域の神社祭りに参加して住民や子供とも触れ合っている。また町内会の協力を得て運営推進会議や避難訓練に参加を得て災害時の体制づくりも整備している。開設14年が経過し、昨年交代した管理者は市外にある同法人グループホームの前職を活かしながら、認知症ケアサービスの向上を熱心に取り組んでいる。本部を中心に当事業所も含めた介護事業所職員育成の法人研修計画や書類の統一化を図るなど体制づくりに向けて計画的に検討を重ねている。事業所では各マニュアルや記録類も整備されている。介護計画を見直す中で排泄ケアを話し合い、自立支援に向けて積極的に取り組んでいる。暖かい時期には個別の意向に沿い家族や職員の同行で、買い物や季節の行事を多く取り入れている。屋外で焼き肉を数回行ったり、好みの出前を取り寄せて提供するなど、食事の変化を入れて楽しめるように工夫しながら対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	館内に複数理念を掲示して、管理者と職員が共有し、意識づけ実践に繋げるよう努めている。	事業所理念の3番目に地域の一員としての文言があり、申し送り時や会議の中で確認している。入居時の際にも今後の暮らし方を理念に基づいて話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の運動会や公園の清掃等の行事に毎年参加している。また、毎年、地域の日本舞踊のボランティアに来館して頂いている。	町内会の盆踊りを見学し、運動会では「玉入れ」競技に参加している。秋には神社祭りの出店を見て回り、参加している住民や子供と触れ合っている。同法人グループホームと合同の夏祭りに家族と一緒にバーベキューを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご相談があった際には適切なサービスがご利用者様につながるようアドバイスを行っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、活動内容・事故報告などを通して、話し合いの場を設けている。案内文をお渡しし、地域包括支援センター、町内会、入居者様ご家族等に参加頂いている。	会議では行事、防災、外部評価、利用者状況などの報告を中心に意見を交換している。全家族に会議案内を送っているが代表参加になっている。議事録は事業所内で閲覧できるように掲示し、全家族には送られていない。	大まかなテーマ設定で年間計画を作成するとともに、各会議案内にもテーマを記載して送り、参加が難しい家族の意見を得て会議に活かすよう期待したい。また、全家族に議事録の送付も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新申請などの事務手続きや生活保護受給者の近況報告、連絡、相談など随時行っております。	分からない時は市や区の担当者に相談や確認をしている。区のグループホーム管理者会の代表になり、研修会開催などで担当者と話し合う機会が多くなっている。会議での研修内容を事業所で報告し、資料を基にケアに役立てている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先にドア錠を設置し、玄関の施錠はしないように工夫をしている。施錠は防犯の為、夜間帯のみに行っている。身体拘束についてもマニュアルを作成し、職員全員に周知し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	資料の収集やマニュアルを基に身体拘束について内部研修を行っている。身体拘束の具体的な禁止行為も話し合い内容を理解している。ユニットリーダーを中心に言葉遣いの目標を設定し、職員間で注意し合ったり、確認できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修をお通して虐待の防止、徹底に努めている。また、ユニット会議においても不適切ケアについて話し合っている。		

グループホーム 厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について、学ぶ機会があるが、すべてのスタッフが十分に理解しているまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前のお問合せの際や契約時に十分説明し、理解・納得を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・運営推進会議・意見箱の設置等で御意見・御要望の収集に努めている。御意見・御要望があった際には運営に反映させるように努めている。	来訪頻度が少ない家族には電話で定期的に話し合うようにしている。来訪時にはケアや介護計画の意向を聞いている。今後は職員の気付きも含めて家族要望などに記載し、個別の些細な想いを共有したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやスタッフ会議等で随時職員の意見や提案を聞いている。また、定期的に個別面談を実施して意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月のユニット会議で、業務改善、ケアや介護計画の見直しで意見を交換し、会議録を整備している。年2回本部職員の同席で管理者は個人面談を行い、業務の中でも日々意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の努力、資格取得に応じて各種資格手当の付与や正社員への登用などを行っている。また、資格取得のための支援や有給休暇が使用しやすいように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格獲得に向けたスクーリングなどの予定に合わせて勤務調整をしている。また、外部研修に出席した職員が講師となり、ユニット内で勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	厚別区グループホーム管理者会議を通して、ネットワークづくりや勉強会の企画を行っている。また、同法人グループとの合同行事なども企画して交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談を行い、ご本人の他、ご家族や関係者から情報収集し、ご本人の要望に対応できるように努めている。同時に安心できる関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や介護担当者から情報収集し、不安や要望について聞き取りしながら、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医療機関の往診や通院などその都度、本人やご家族と相談して同意を得た上で実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット同士の交流を図ったり、家事活動・行事などの参加を促進して、入居者、職員同士だけでなく地域との関わりも持てるよう工夫している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活状況を伝え、本人と共に介護方法や生活スタイルについて相談しながら進めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域活動や行事の中で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	入居後に職場の同僚だった方の来訪があり、継続できるように対応している。行事の時に来訪している踊りの会のボランティアとは顔馴染みになっている。家族と外食や買い物に行ったり、外出時に趣味のゲームを楽しむこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係の把握に努め、家事仕事や共同生活を通じて、関わり合いが持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了しても、ご希望者には通信の送付を行い、関係性を大切にすることを努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様とのコミュニケーションを通じ、一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。困難な場合は家族や関係者と話し合っている。	入居時のセンター方式のシートを1年ごとに更新している。現在、チェック方法も取り入れて記載しやすいアセスメントシートの書式を作成中である。	センター方式の内容を取り入れながら検討している書式の中で、「私の姿」の項目に暮らしの習慣、嗜好、趣味なども記載し、変化を追記しながら今の思いを共有できるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族などから聴取した内容を記録として残し、他の職員にも伝達できるようにしている。入居後もご本人・家族から生活歴を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録から、現状の把握に努め、職員間での情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、職員の意見等を聴取しケアプランに反映している。また、設定期間ごとの見直しだけでなく、状況の変化など必要に応じて変更している。	担当職員が支援内容の項目に沿って評価を行い、それらを基にカンファレンスで確認し6か月ごとに介護計画を作成している。現在、支援内容を表記した介護記録の書式を作成しており、普段と違う様子を分かり易く記載できる方法を検討中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護の実践は個別記録に記載し、職員間で情報を共有するよう努めている。必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自施設でまかなえない部分は、外部サービスなどに繋げることにより、一人ひとりの多様なニーズに応えるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、地域包括支援センターや他事業所の協力も得ながら、暮らしを楽しむことが出来るように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には隔週で往診に来てもらっている。その他にも必要な場合、希望などがあれば通院などができるように配慮している。	受診先の意向を確認し、提携病院の訪問診療をほぼ全員が受けており、内科以外の他科受診には職員が同行している。受診内容は「受診情報」に往診・通院の経過を個別に記録し、往診ごとに主治医の「情報提供書」も綴っている。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(1階)	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関から週1回看護師に訪問してもらっている。生活状況を伝え、アドバイスや受診の必要性などを指導してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員を窓口にも病棟看護師などを通して、情報交換し相談している。また、医師、看護師、御家族と相談しながら、入退院について話し合いを持っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居者が重度化した場合の指針についてはあらかじめ説明し、文書で同意をもらっている。実際に重度化した場合にも再度ご家族、本人の意向を確認しながら、本人にとってより良い生活ができるように、繰り返し話し合いを行っている。	重度化への対応指針に、終末期ケアで医療行為が難しいことも明記してある。重度化の状態に沿ってその都度、関係者で方針を確認し、ミキサー食で調理方法を工夫したり、一時的な入退院や点滴などで可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習会を受講するようにしている。緊急時に備えて連絡網、マニュアルを作成し、すぐに取り出せるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定を含めた避難訓練を繰り返し実施している。運営推進会議で地域との協力についてお願いしている。	昨年は消防署立ち会いで事業所独自の火災避難訓練を実施したが住民の参加は得られていない。今年度中に地震から火災発生を想定した訓練を予定している。災害時の備蓄品類は整備している。	消防署の立ち会いで、地震から火災発生時の避難訓練に住民の参加が得られるよう期待したい。また、事業所内の共用空間や居室内の危険な箇所の確認と各ケア場面での対応について話し合うことも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をユニット目標として掲げたり、ユニット会議の中で取り上げ介護にあたる基本として確認している。	入職時に接遇研修を実施している。認知症ケアマニュアルを整備し、不適切ケアやスピーチロックについて学びを深めている。個人的なことは耳元や居室で話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の立場に立って考えたり、複数提案する事で自己決定できる場面をつくるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のリズムに合わせて、一人ひとりのペースで過ごせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をとかしたり、服を選ぶお手伝いなどに応じて支援している。また、希望時には理容室に出かけたりしている。		

グループホーム 厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付けや食器洗い、調理補助などを行ってもらい食事が楽しみになるよう支援している。	食材会社の献立を基本に、利用者が食べやすいように調理法を工夫している。季節を感じる献立にしたり、出前の寿司を楽しむこともある。利用者に教えて貰いながら鯨漬けと一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲水量や食事の摂取量を毎回記録し、把握に努めている。また、個々に応じた食事形態や栄養補給が出来るように主治医・訪問看護師との連帯にも情報を活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施して必要であれば協力医療機関の歯科医院と連帯を図り、治療や定期的な口腔ケアなども行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活かし、定期的なトイレ誘導を行い、自立での排泄の支援に努めている。	全員の排泄を記録して、自立している方も間隔を見ながら声かけすることもある。身体状況に応じてベッド上で交換することもあるが、可能な限りトイレでの自然排泄が継続できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や体操を継続的に行っていけるように働きかけている。また、食物繊維やオリゴ糖を多くとれるように支援して便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午前から午後まで入浴が可能で、各利用者が週2回以上入浴できるように支援している。また入浴剤を使用し、気持ちの良い入浴を支援している。	浴槽のお湯を毎回交換して、時間帯やシャワー浴などの希望に沿って、職員とゆっくり話しをしながら入浴を楽しんでいる。各ユニットでリフト浴ができるように現在準備を進めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが必要な休憩がとれるように活動時間や体力的な事も検討し、1日のリズムが作れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を整備し、個別に管理している。変更があった際にはその都度、情報を更新し周知すると共に様子観察にも努め、医療機関へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	館内の活動(家事活動・館内行事等)の他、地域行事や季節に応じたレクリエーションを通して、楽しく過ごす事ができるように支援している。		

グループホーム 厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	館周辺を散歩に出かけたり、季節より花見や紅葉狩りなどの季節行事などの外出活動も行っている。また、地域の方々にも協力してもらい町内のイベントなどにも参加している。	普段から遊歩道を散歩したり、花見の季節にはお弁当を持って桜を楽しんでいる。畑の野菜と一緒に収穫することもある。川下公園でバーベキューをしたり、花ロードえにわに出かけて南瓜スイーツを食べている。冬季以外は積極的に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様ご本人がお金を持つことの大切さを考慮し、御家族と協力してお金を所持・使用することを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、手紙のやり取りや電話をできるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間や居室は常に掃除を行い、温度計・湿度計を設置し、室温調整も適切に行っている。また壁飾りなどで季節感を取り入れたり、行事の写真を貼ったりしている。	居間や食堂は、廊下と一体感のある明るく開放感のある造りになっている。季節を感じる雑段や観葉植物、花なども飾られていて家庭的な温もりが感じられる。書道作品や利用者の写真を掲示したり、時の見当識にも配慮して時計を多く配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者自身が各々過ごしやすい居場所を見つけている。また入居者同士が歓談されたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの入居者が自宅で使い慣れた家具や物品、思い出の品を使用出来るように伝えて、持ち込んで頂いている。	使い慣れたタンスやクローゼット、ラジオや縫いぐるみ等が持ち込まれている。入り口や壁に本人の作品を飾ったり、家族の写真、誕生日カードなどもあり、その人らしい落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ること」「出来ないこと」を見極め、出来る限り自立した暮らしができるように、一人ひとりに合わせた支援をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502298		
法人名	有限会社 優コーポレーション		
事業所名	グループホーム厚宮館 2階		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条1丁目1番30-2号		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	平成30年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・入居者が共同生活の中で安心して生活が出来るように、ユニット間での交流や職員同士の情報の共有に努めています。また、体調変化にも十分注意を払い、協力医療機関と連携を図り、相談・報告を行うことで健康管理に努めています。</p> <p>・1年を通して、お花見、夏祭り、紅葉見学、クリスマス会などの行事を毎月実施することで、季節を感じると共に、メリハリのある生活が送れるように取り組んでいます。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0170502298-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	館内に複数理念を掲示して、管理者と職員が共有し、意識づけ実践に繋げるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の運動会や公園の清掃等の行事に毎年参加している。また、毎年、地域の日本舞踊のボランティアに来館して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談等の有事の際、適切なサービスを利用者様が受けられる様、アドバイス等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、活動内容・事故報告などを通して、話し合いの場を設けている。地域包括支援センター、町内会、入居者様ご家族等に参加頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新申請などの事務手続きや生活保護受給者の近況報告、連絡、相談など随時行っております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先にドア鈴を設置し、玄関の施錠はしないように工夫をしている。施錠は防犯の為、夜間帯のみにしている。身体拘束についてもマニュアルを作成し、職員全員に周知し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修をお通して虐待の防止、徹底に努めている。また、ユニット会議においても不適切ケアについて話し合っている。		

グループホーム 厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について、学ぶ機会があるが、すべてのスタッフが十分に理解しているまでには至っていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前のお問合せの際や契約時に十分説明し、理解・納得を得られるよう努めている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・運営推進会議・意見箱の設置等で御意見・御要望の収集に努めている。御意見・御要望があった際には運営に反映させるように努めている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやスタッフ会議等で随時職員の意見や提案を聞いている。また、定期的に個別面談を実施して意見や提案を聞く機会を設けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の努力、資格取得に応じて各種資格手当の付与や正社員への登用などを行っている。また、資格取得のための支援や有給休暇が使用しやすいように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格獲得に向けたスクーリングなどの予定に合わせて勤務調整をしている。また、外部研修に出席した職員が講師となり、ユニット内で勉強会も行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	厚別区グループホーム管理者会議を通して、ネットワークづくりや勉強会の企画を行っている。また、同法人グループとの合同行事なども企画して交流する機会を設けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談を行い、ご本人の他、ご家族や関係者から情報収集し、ご本人の要望に対応できるように努めている。同時に安心できる関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や介護担当者から情報収集し、不安や要望について聞き取りしながら、信頼関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医療機関の往診や通院などその都度、本人やご家族と相談して同意を得た上で実施している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット同士の交流を図ったり、家事活動・行事などの参加を促進して、入居者、職員同士だけでなく地域との関わりも持てるよう工夫している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活状況を伝え、本人と共に介護方法や生活スタイルについて相談しながら進めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域活動や行事の中で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係の把握に努め、家事仕事や共同生活を通じて、関わり合いが持てるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了しても、ご希望者には通信の送付を行い、関係性を大切にすることを努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様とのコミュニケーションを通じ、一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。困難な場合は家族や関係者と話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族などから聴取した内容を記録として残し、他の職員にも伝達できるようにしている。入居後もご本人・家族から生活歴を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録から、現状の把握に努め、職員間での情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、職員の意見等を聴取しケアプランに反映している。また、設定期間ごとの見直しだけでなく、状況の変化など必要に応じて変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護の実践は個別記録に記載し、職員間で情報を共有するよう努めている。必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自施設でまかなえない部分は、外部サービスなどに繋げることにより、一人ひとりの多様なニーズに応えるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、地域包括支援センターや他事業所の協力も得ながら、暮らしを楽しむことができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には隔週で往診に来てもらっている。その他にも必要な場合、希望などがあれば通院などができるように配慮している。		

グループホーム 厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関から週1回看護師に訪問してもらっている。生活状況を伝え、アドバイスや受診の必要性などを指導してもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員を窓口にも病棟看護師などを通して、情報交換し相談している。また、医師、看護師、御家族と相談しながら、入退院について話し合いを持っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居者が重度化した場合の指針についてはあらかじめ説明し、文書で同意もらっている。実際に重度化した場合にも再度ご家族、本人の意向を確認しながら、本人にとってより良い生活ができるように、繰り返し話し合いを行っている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習会を受講するようにしている。緊急時に備えて連絡網、マニュアルを作成し、すぐに取り出せるようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定を含めた避難訓練を繰り返し実施している。運営推進会議で地域との協力についてお願いしている。			
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をユニット目標として掲げたり、ユニット会議の中で取り上げ介護にあたる基本として確認している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の立場に立って考えたり、複数提案する事で自己決定できる場面をつくるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のリズムに合わせて、一人ひとりのペースで過ごせるよう心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をとくしたり、服を選ぶお手伝いなどに応じて支援している。また、希望時には理容室に出かけたりしている。			

グループホーム 厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付けや食器洗い、調理補助などを行ってもらい食事が楽しみになるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲水量や食事の摂取量を毎回記録し、把握に努めている。また、個々に応じた食事形態や栄養補給が出来るように主治医・訪問看護師との連帯にも情報を活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施して必要であれば協力医療機関の歯科医院と連帯を図り、治療や定期的な口腔ケアなども行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活かし、定期的トイレ誘導を行い、自立での排泄の支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や体操を継続的に行っていけるように働きかけている。また、食物繊維やオリゴ糖を多くとれるように支援して便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午前から午後まで入浴が可能で、各利用者が週2回以上入浴できるように支援している。また入浴剤を使用し、気持ちの良い入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが必要な休憩がとれるように活動時間や体力的な事も検討し、1日のリズムが作れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を整備し、個別に管理している。変更があった際にはその都度、情報を更新し周知すると共に様子観察にも努め、医療機関へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	館内の活動(家事活動・館内行事等)の他、地域行事や季節に応じたレクリエーションを通して、楽しく過ごす事ができるように支援している。		

グループホーム 厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	館周辺を散歩に出かけたり、季節より花見や紅葉狩りなどの季節行事などの外出活動も行っている。また、地域の方々にも協力してもらい町内のイベントなどにも参加している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様ご本人がお金を持つことの大切さを考慮し、御家族と協力してお金を所持・使用することを支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、手紙のやり取りや電話をできるようにしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間や居室は常に掃除を行い、温度計・湿度計を設置し、室温調整も適切に行っている。また壁飾りなどで季節感を取り入れたり、行事の写真を貼ったりしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者自身が各々過ごしやすい居場所を見つけている。また入居者同士が歓談されたりしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの入居者が自宅で使い慣れた家具や物品、思い出の品を使用出来るように伝えて、持ち込んで頂いている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ること」「出来ないこと」を見極め、出来る限り自立した暮らしができるように、一人ひとりに合わせた支援をしている。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム厚宮館

作成日：平成 30年 3月 15日

市町村受理日：平成 30年 3月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議では行事、利用者状況、外部評価などの報告を中心に行っているが、家族参加は代表参加になっている。	参加が難しいご家族の意見を得て会議に活かすようにする。	会議開催案内と議事録送付を継続的に行い、参加が難しい家族の意見を得て会議に活かすようにしていく。	12ヵ月
2	23	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め1年ごとの更新をしているが、更なる充実を図り支援していきたい。	センター方式のアセスメントシートの継続的な更新や見直しを行い、今の思いや意向について共有できるように努めていく。	アセスメントシート活用状況の見直しを図り、必要に応じて書式変更を行う。また、定期的な更新を行っていく。	12ヵ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。